

がん哲学外来市民学会第2回大会長挨拶

第2回大会長としてご挨拶申し上げます。

がん哲学外来市民学会は、市民と医療従事者が手を携えたユニークな学会です。国民の2人に1人ががんに罹患するということは、誰もががんと無縁で生きることはできないということです。そのことに真摯に向きあおうというエネルギーを感じます。このような活動が続くことは高齢化社会を迎えるわが国で希望の光となることでしょう。また、もうひとつの特徴は均質化を目指すのではなく地域色を大切にしていることです。昨年の佐久の大会では秋の農村風景の中で、佐久総合病院と浅間総合病院を中心とした長寿全国一の医療の特色を感じることができました。今回は大都市東京ですが、その中でも下町、山の手、郊外と特色あるメディカルカフェが展開しています。東京ならではの大会になればと願っています。

今大会のテーマを「がん患者を支える社会ネットワークの構築に向けて」といたしました。戦後の日本では核家族化と都市化が進み、かつて豊かであった血縁、地縁がどんどん希薄になっています。一方でがん医療の変化も大きく、抗癌剤治療は入院から外来にシフトして、患者さんと医療従事者とのコミュニケーションも希薄になっています。このように、かつては患者を支えていた基盤が揺らいでいる状況の中で、がん患者を支える社会ネットワークの構築は急務の課題であり、地域に根付いたメディカルカフェは大きな力を発揮できるでしょう。そのような期待を込めて第2回大会のテーマを決めました。

プログラムの午前中に「特色別がん哲学外来報告」として各地のメディカルカフェの活動を紹介し、午後は「がん哲学外来市民学会への期待」としてがん医療に深く関わる著明な先生方から講演をいただきます。その後、今大会のテーマである「がん患者を支える社会ネットワークの構築に向けて」と題したパネルディスカッションを行います。昼休みには各地のメディカルカフェの活動をポスター展示していますのでご覧下さい。また、新しい試みとして会場で実際のメディカルカフェを準備委員により開設いたします。

本日一日、最後までお付き合いいただければ幸いです。

がん哲学外来市民学会第2回大会長

安藤 潔

